



証券コード 9248

人・夢・技術グループ株式会社

2022年9月期 決算説明会

2022年12月8日(木)

代表取締役社長 永治泰司

目次

1. ごあいさつ
2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み
3. 2022年9月期決算ハイライト
4. 長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り
5. 新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想
6. 2022年9月期下半期トピックス



1. ごあいさつ

2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み

3. 2022年9月期決算ハイライト

4. 長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り

5. 新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想

6. 2022年9月期下半期トピックス



シンボル文字の意味

- ・ 読み方：ひろげる
- ・ 意味：人・夢・技術グループの創立目的でもある国土強靱化、地域創生をもって、人々が夢を見られる社会を構築するためには、一緒に事業を進める仲間を増やすことが重要です。人・夢・技術グループの理念に共感し、共に行動する仲間の輪を拡げることを願うものです。

人・夢・技術グループ設立から1年

グループビジョンの実現に向けて順調に前進

新しい形の
まちづくり
デジタル田園都市構想
Type3に採択



新たな
グループ企業
(株)ピーシーレールウェイ
コンサルタント



安全・安心で
夢のある
まちづくり

社員が
働きやすい
環境整備



グループ間
シナジー



基盤事業の強化
安全・安心な
まちづくり



宇都宮市と港区に主要拠点を置き、全国の広範囲を営業エリアに活動
PC橋梁や鉄道構造物設計の他、各種道路構造物・河川・砂防等の設計計画を手掛け
有資格者多数の専門集団として屈指の設計力と技術力を有する建設コンサルタント

－地域創生・国土強靱化へのニーズに応えるべく、今後も地域企業との連携を加速します－

◆会社概要

| 商号 | (株) ピーシーレールウェイコンサルタント |
|-----|----------------------------|
| 本社 | 栃木県宇都宮市 |
| 代表者 | 代表取締役社長 荘司 和彦 |
| 資本金 | 3000万円 |
| 創立 | 1989年6月28日 |
| 社員数 | 172名（技術系150名） 2022年10月4日現在 |



売上・利益は長大、基礎地盤コンサルタツに次ぐグループ3番手

◆経営成績

| (単位：百万円) | 20/5期 | 21/5期 | 22/5期 |
|----------|-------|-------|-------|
| 売上高 | 1,889 | 2,247 | 2,247 |
| 営業利益 | 220 | 316 | 249 |



2社はフィリピン国（比国）のマニラ首都圏に拠点を置き、比国人材の海外への送り出しと、比国国内インフラプロジェクトへの人材派遣を手掛ける特に建設系人材の紹介・派遣に強みを持つ比国ローカル企業です

－国内外の高まる人材ニーズに応えるべく、比国から人材面で支援します－

◆会社概要

| | PHILNOS社（フィルノス社） | NOSPIL社（ノスフィル社） |
|------|--|--|
| 会社名 | Philnos Corporation | Nosphil Consultancy and Manpower Services Inc. |
| 設立 | 1994年6月 | 2013年9月 |
| 資本金 | PHP 5,000,000.00（約1,085万円） | PHP 5,000,000.00（約1,085万円） |
| 現株主 | ・長大フィリピン：25%保有（外資持分上限） ・Dize Link Philippines Inc.（パートナー企業）：75%保有 | 同左 |
| 従業員 | 12名 | 56名（外部への派遣社員含む） |
| 事業目的 | 比国人材の海外派遣事業（紹介） | 比国内向け（現地日系企業中心）の人材派遣業 |

－業歴25年超の比国人材発掘のスペシャリスト集団－

◆送り出し・派遣実績

PHILNOS社がこれまでに海外に送り出した人材

3,212名

NOSPIL社がこれまでに比国内で派遣した人材

254名



人・夢・技術グループの新しい取り組み「未来のまちづくり」

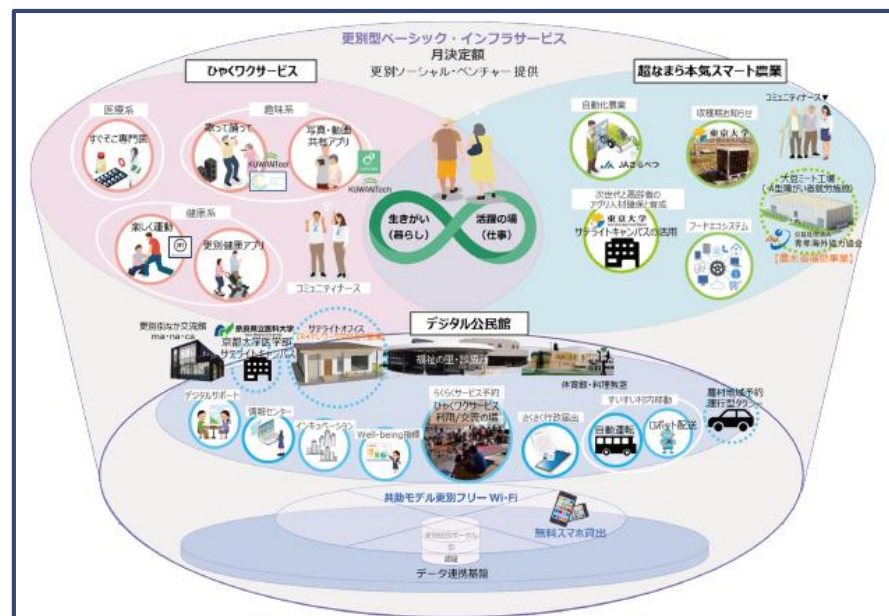
未来の社会の姿を創るスマートシティ事業を通しての地域創生の実現へ

■ 『北海道更別村SUPER VILLAGE構想』 が国のデジタル田園都市国家構想に採択

- 国のデジタル田園都市構想推進交付金のType3に採択
- 交付金を活かし、更別村が進める“更別村『SUPER VILLAGE』構想”を建設コンサルタントの経験を生かして支援

■ 2022年10月24日 更別村 デジタル活用の住民サービス開始

- 13の事業が2022年10月までにスタート
新たに設立されるソーシャルベンチャーが月額制でインフラサービスを提供
- 更別村は国から支給された「デジタル田園都市国家構想」の交付金、およそ5億円を活用し、高齢化に伴う課題の解決を目指す



2022年10月24日更別村サービス開所式

人・夢・技術グループの新しい取り組み「空飛ぶクルマ」

空飛ぶクルマは新たな空のモビリティとして世界中で機体開発やルール整備が進む
日本では国土交通省・経済産業省を中心に、2025年大阪万博での航行を目指す

■ 日本初の「空飛ぶクルマ」の海上飛行による実証実験



- 2022年7月6日、日本初となる「空飛ぶクルマ」の海上飛行での実証実験を成功させる
- 2022年4月、長大は「空の移動革命に向けた官民協議会」に新規構成員として加入。空飛ぶクルマに関する制度設計、離発着場の導入・評価、実装、展開等の事業検討等を行う
- 大阪・関西万博への参画に向けて、長大が人・夢・技術グループをリードし事業拡大



■ 空飛ぶクルマ社会実装に向けた実証実験 大阪府における「空飛ぶクルマ都市型ビジネス創造都市推進事業補助金」に採択

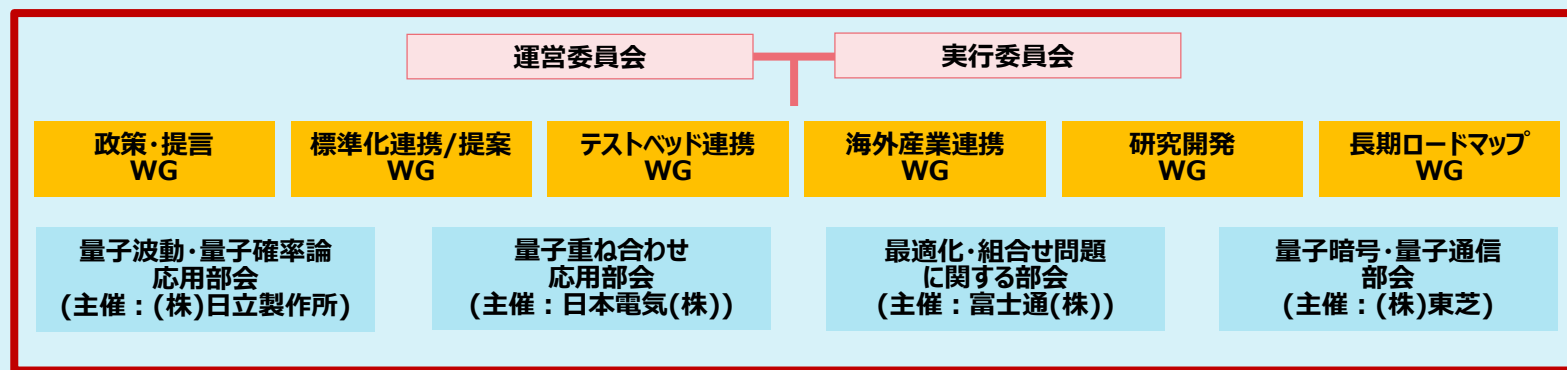
- 長大は、2025年度の大阪府内における空飛ぶクルマの運航事業実現に向け、事業性の評価並びに空飛ぶクルマを活用したサービスの認知度を高め、社会受容性の向上に貢献すべく、2つの実証実験を、丸紅株式会社と共同で実施予定です。

人・夢・技術グループの新しい取り組み「量子技術の活用」

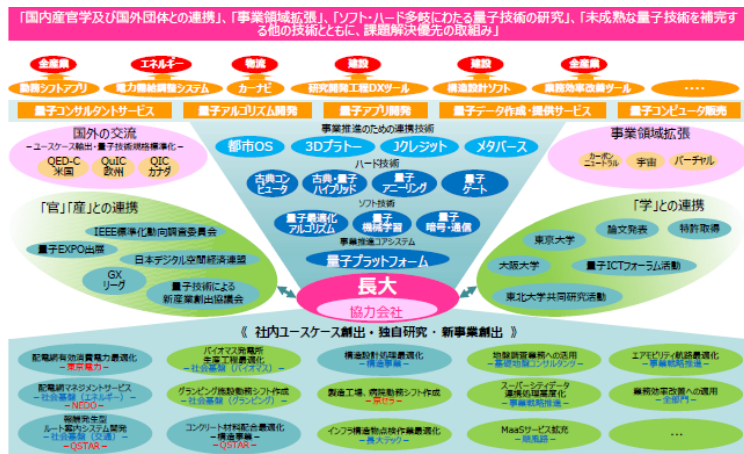
社会インフラの発展のため、量子事業の未来ビジョンの実現を目指して

■ 量子技術による新産業創出協議会(Q-STAR)での取り組み

赤枠内が長大の現在の活動領域



■ 長大の量子事業の未来ビジョンと東北大学における量子コンピューティング研究活動



制約条件と定式化 6つの課題を定式化

- 必要なスキルを持つスタッフを各コマ1人以上配置する

$$Q_1 = \lambda_1 \sum_{s=0}^{S-1} \left\{ \sum_{i,j,m=0}^{N-1} \left(\sum_{m=0}^{A-1} Z_{i,m} Z_{j,m} \right) x_{i,k_1,s} x_{j,k_1,s} \right\}$$
- 複数店舗を管理し、ダブルブッキングを防止

$$Q_2 = \lambda_2 \sum_{s_1,s_2=0}^{S-1} \sum_{i,j=0}^{N-1} x_{i,k_1,s_1} x_{j,k_1,s_2}$$
- 各コマにスタッフを P_k 人ずつ配置する

$$Q_3 = \lambda_3 \sum_{s=0}^{S-1} \left(\sum_{i=0}^{N-1} x_{i,k_1,s} - P_{k_1,s} \right)^2$$

雇用者側の希望に基づく制約

勤務シフト作成アプリヘルプポイント機能導入

勤務希望が通らなかったスタッフにヘルプポイントを発行し、ヘルプポイントを使って、必ず休暇が取れるような仕組みを作成

人・夢・技術グループの新しい取り組み「気候変動への対応」

気候変動への対応は、当社グループが持続可能な成長を目指す上で、
取り組むべき重要な経営課題の一つである

■適切な情報開示に向けた取り組みを進めており、2022年から提言に
沿って順次情報を開示してまいります

■2022年1月、FIDIC（国際コンサルティング・エンジニア連盟）
Climate Change Charter（気候変動憲章）へ賛同

■2022年12月、TCFD提言への賛同へ賛同

*申請済みであり、次回更新にTCFD賛同企業リストへ追加される通知を受領済み



■2050年カーボンニュートラルの実現に向けたグループ全体の取り組み

■当社グループの事業を通してカーボンニュートラルに貢献

- ・再生可能エネルギー事業の促進
- ・地方自治体の再生可能エネルギー導入計画策定の支援など

■2050年カーボンニュートラルの達成、TCFD提言に沿った情報開示

- ・サステナビリティ委員会の設置
- ・TCFD開示に求められる温室効果ガス排出量の算定、気候変動に対するリスクと機会の選定を内製化



人・夢・技術グループ 新規事業の取り組みと進捗

未来のまちづくり



スーパーシティ構想



自動運転/オンデマンド交通

BIM/CIMによる計画/調査/設計

空飛ぶクルマ

スマートシティの実現に向けて、計画設計から新しい交通の導入、まち全体のマネジメントまで、地域創生も含めたあらゆる取り組みを行っています。

未来へ。そして「夢」へ ビジョン2030に向けた新しい取り組み



長六創立50周年記念事業「30年後の最大の未来都市」社内公募 最優秀作品

未来のエネルギー/都市開発

未来のテクノロジー



衛星SARによる地表モニタリング



量子コンピューター

人工衛星を利用した地上観測技術(リモートセンシング技術)や量子コンピューターなどの最先端技術を導入。宇宙を視野に入れた取り組みにより、地球規模の課題を解決していきます。



水上都市構想

未来の農業



ロボットやドローンによる自立型農機農機監視システム



バイオ炭の農地利用

人口減少や環境問題など農業に影響を及ぼす社会課題の解決に向け、AIを使ったシステムによるスマート農業や、再生可能エネルギーと連動した畜環境農業を推進しています。



洋上風力発電



人工地盤の研究

地球温暖化、気候変動が深刻さを増す中、洋上風力などの新たなエネルギーの開発や、水害や海面上昇に対応できる水上都市の研究を進めています。



1. ごあいさつ

2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み

3. 2022年9月期決算ハイライト

4. 長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り

5. 新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想

6. 2022年9月期下半期トピックス

人・夢・技術グループ°2022年9月期 連結損益計算書サマリー

主力の国内の道路事業・構造事業等を中心とした受注増加を背景に順調に推移

(百万円)

| | 2021年9月期 通期実績 (注1) | 2022年9月期 通期実績 (注2) | 増減額 | 通期予想 | 達成率 |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|-------|--------|--------|
| 受注高 | 34,631 | 39,265 | 4,633 | 36,900 | 113.3% |
| 売上高 | 34,541 | 37,604 | 3,063 | 35,700 | 105.3% |
| 営業利益 | 3,838 | 3,397 | △440 | 2,670 | 127.3% |
| 経常利益 | 4,024 | 3,891 | △133 | 2,700 | 144.1% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 2,406 | 2,333 | △73 | 1,500 | 155.5% |

(注1) 2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値

(注2) 2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用

■売上高について

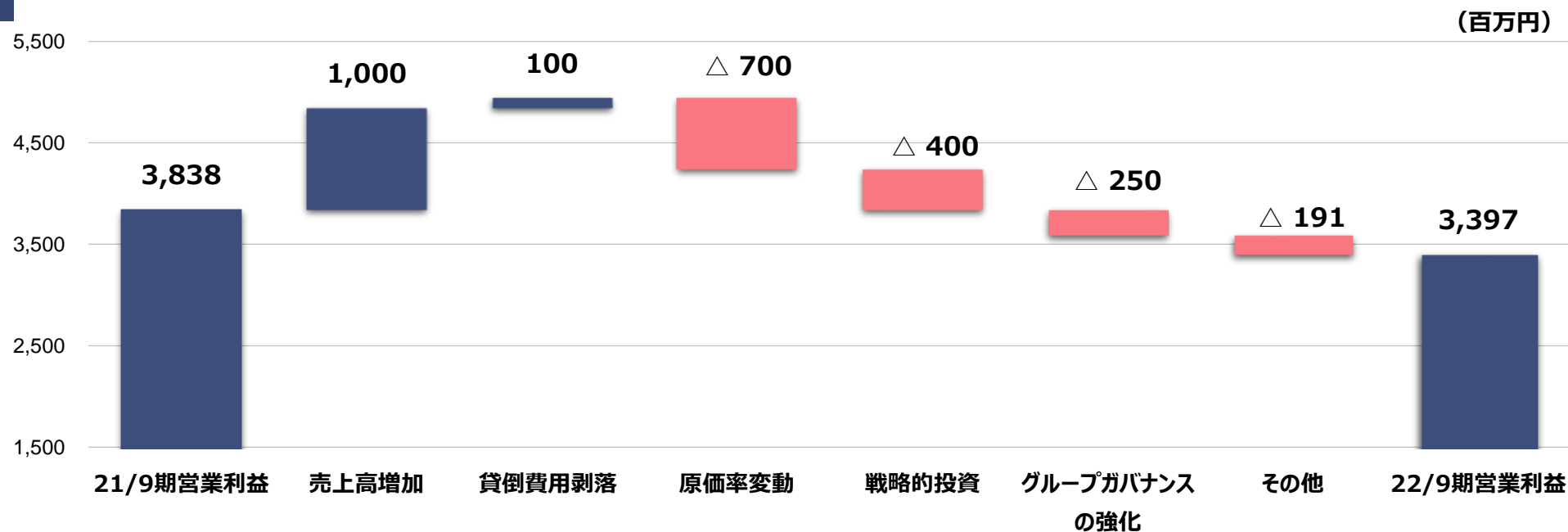
- 主力事業である道路事業、構造事業等を中心とした受注増加を背景に順調に推移

■営業利益について

- 売上増により粗利益は増加したものの、持株会社化によるコストの増加、および新事業領域への先行投資および研究開発投資の推進などにより減少。

営業利益増減要因の分析

2022年9月期営業利益は、投資の推進により対前期比-11.5%となる



【ご参考】 2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値
2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用

■営業利益増加要因

- ・ 堅調な基幹事業の受注による売上高の増加により増加

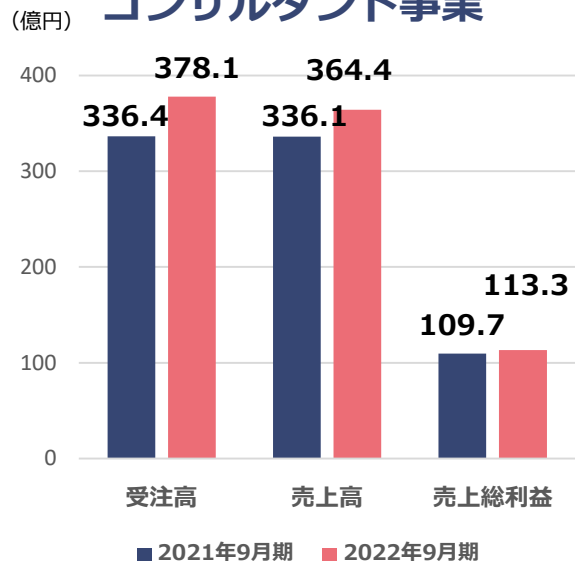
■営業利益減少要因

- ・ 新事業領域拡大に向けた先行投資、研究開発投資の推進、グループガバナンス強化に向けての体制強化などにより減少

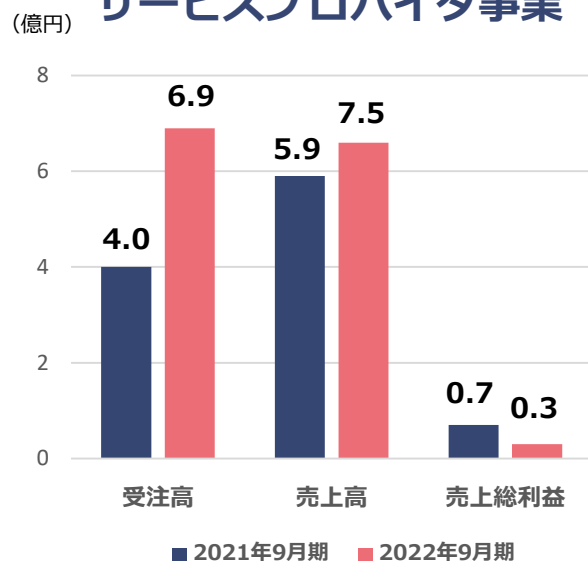
セグメント別の業績

全てのセグメントで受注高、売上高を伸ばしている

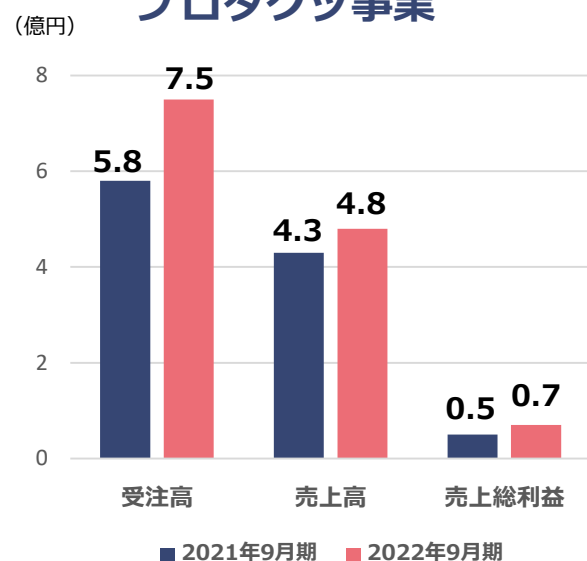
コンサルタント事業



サービスプロバイダ事業



プロダクツ事業



■ 事業環境を反映して総じて堅調

- 構造事業、社会基盤事業、地質土質事業とも、良好な事業環境を背景に業績は堅調
- 海外事業では、構造事業、地盤の調査・観測業務が売上に貢献

■ 増収減益

- 前期に引き続き、国内におけるPark-PFI事業のアドバイザリー業務やバイオマス発電事業の事業化等、地方創生に資する事業を推進

■ 商品拡充などにより、増収

- コンクリート用夜間反射塗料、バイオグリーンシールドなどのオリジナル商品を拡充

連結貸借対照表の概要

(百万円)

| <主な項目> | 2021年9月期 実績(注1) | 2022年9月期 実績(注2) | 増減額 | コメント |
|--------------|--------------------|--------------------|--------------|--|
| 資産合計 | 32,769 | 33,463 | 694 | 流動資産 |
| 流動資産 | 23,108 | 23,369 | 260 | ・ 未収入金、貯蔵品及び契約資産の増加 （「収益認識に関する会計基準」適用による影響） |
| 固定資産 | 9,660 | 10,093 | 433 | 固定資産 ・ 有形固定資産の増加 |
| 負債合計 | 14,605 | 13,623 | △981 | 流動負債 |
| 流動負債 | 11,526 | 9,659 | △1,866 | ・ 未成業務受入金等の減少 |
| 固定負債 | 3,078 | 3,963 | 885 | 固定負債 ・ 新規連結によるリース債務の増加等による影響 |
| 純資産合計 | 18,163 | 19,839 | 1,675 | ・ 好調な業績を受け利益剰余金が増加 |
| 株主資本 | 17,961 | 19,609 | 1,647 | |

連結キャッシュ・フロー表の概要

(百万円)

| <主な項目> | 2021年9月期 実績(注1) | 2022年9月期 実績(注2) | コメント |
|-----------------------|--------------------|--------------------|---|
| 営業キャッシュ・フロー | 3,832 | △1,234 | 「収益認識に関する会計基準」適用による売上債権の増加、未成業務支出金の減少、未成業務受入金の減少などによる影響 |
| 税金等調整前当期純利益 | 3,707 | 3,667 | |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △1,127 | △5,841 | |
| 未成業務支出金の増減額 (△は増加) | △33 | 5,178 | |
| 未成業務受入金の増減額 (△は減少) | 860 | △1,999 | |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少) | 350 | △463 | |
| 法人税等の支払額 | △1,239 | △1,675 | |
| 投資キャッシュ・フロー | △1,589 | △941 | 不動産の取得に伴う支出、長期貸付の実施による支出等 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △504 | △9 | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △187 | △558 | |
| 貸付けによる支出 | △939 | △377 | |
| 財務キャッシュ・フロー | △403 | △767 | 自己株式の取得の増加による影響 |
| 自己株式の取得による支出、処分 | 59 | △427 | |
| 期末現金および現金同等物残高 | 10,151 | 7,413 | |

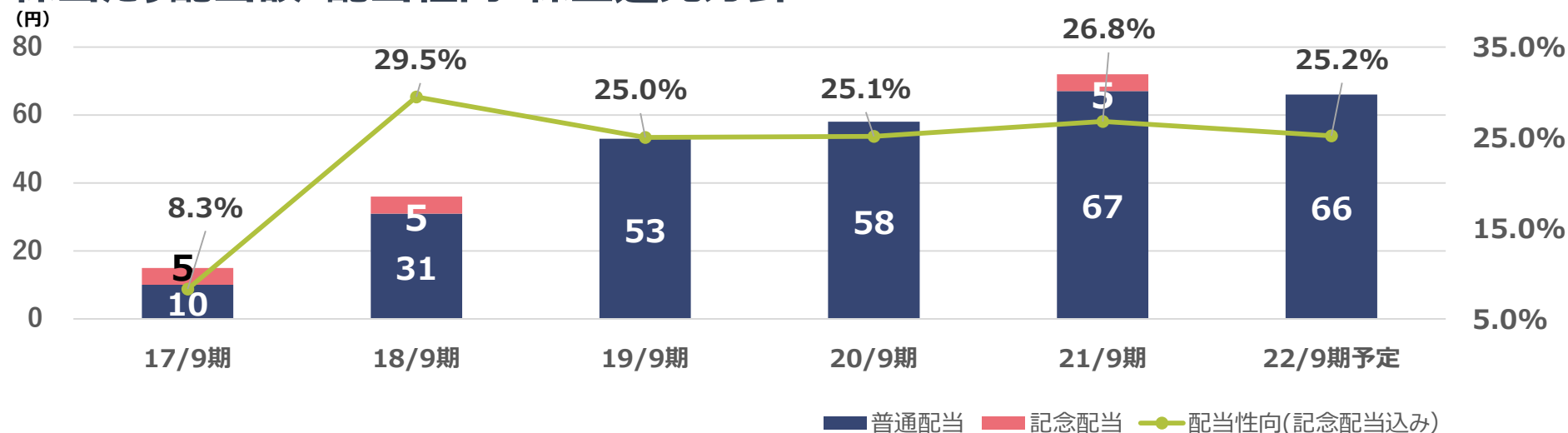
(注1) 2021年9月期実績は、株式会社社長大として公表した数値

(注2) 2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用


好調な業績により、普通配当66円を実施予定

| | 17年9月期 実績 | 18年9月期 実績 | 19年9月期 実績 | 20年9月期 実績 | 21年9月期 実績 | 22年9月期 予定 |
|--------------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1株当たり配当額 (うち特別配・記念配) | 15 (5) | 36 (5) | 53 | 58 | 72 (5) | 66 |
| 配当性向 (特別配・記念配除く) | 12.4% (8.3%) | 29.5% (25.4%) | 25.0% (25.0%) | 25.1% (25.1%) | 26.8% (25.0%) | 25.2% (25.2%) |

1株当たり配当額・配当性向・株主還元方針



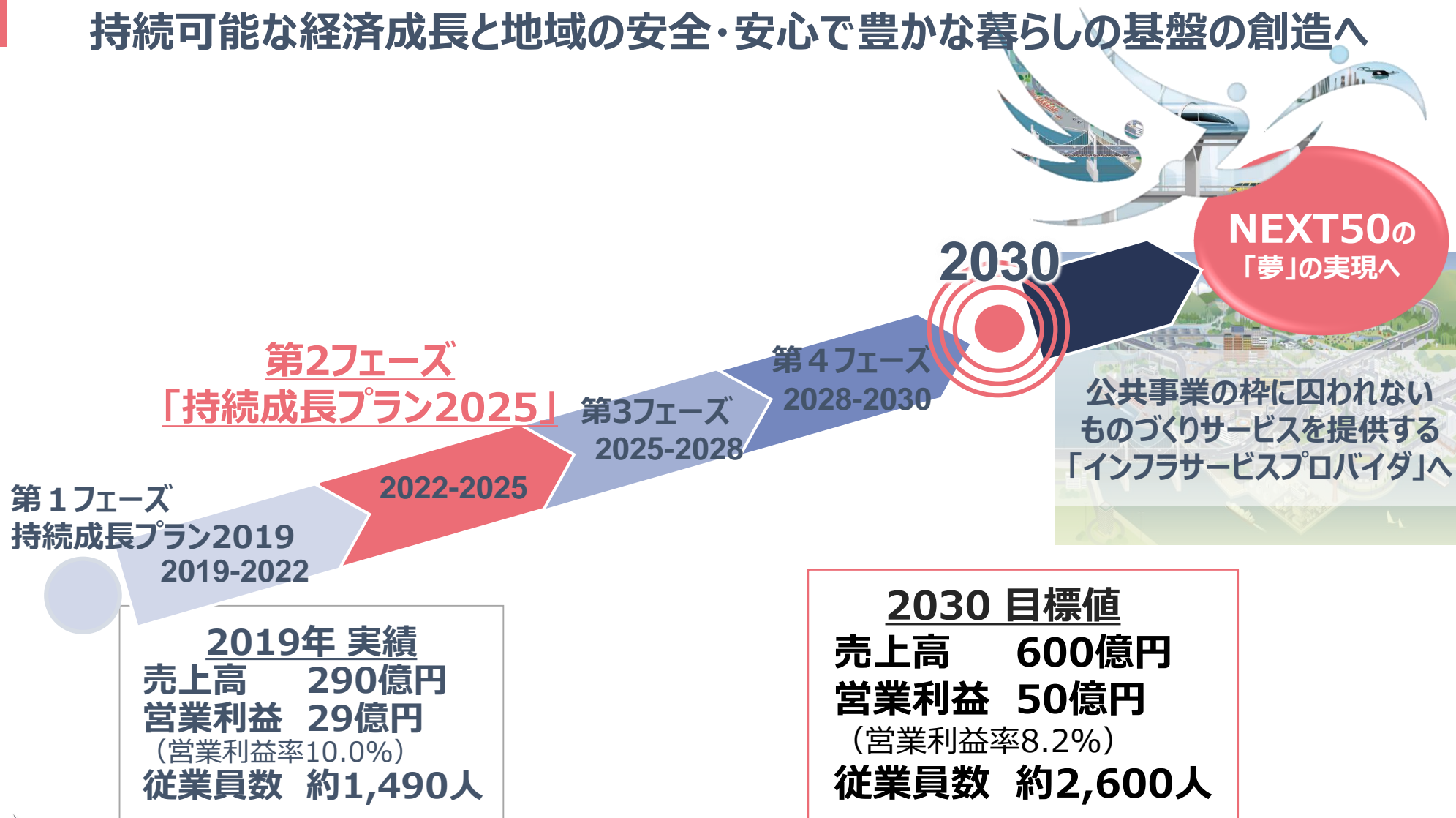
- 2019年9月期より、1株当たり配当額40円と配当性向25%に基づく配当額の高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針（長期経営ビジョンの最終年となる2030年までの間、より安定的に配当を実施する方針）

- 
1. ごあいさつ
2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み
3. 2022年9月期決算ハイライト
4. **長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り**
5. 新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想
6. 2022年9月期下半期トピックス

人・夢・技術グループが目指す姿

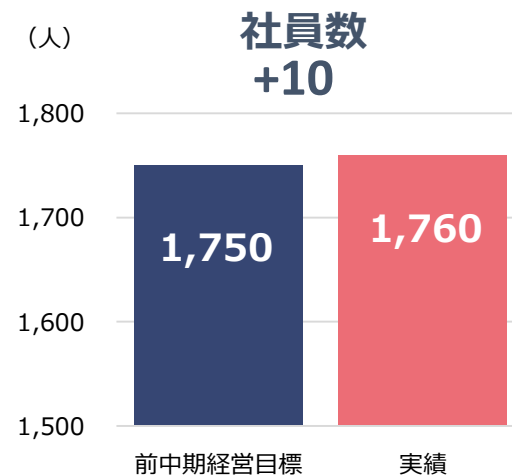
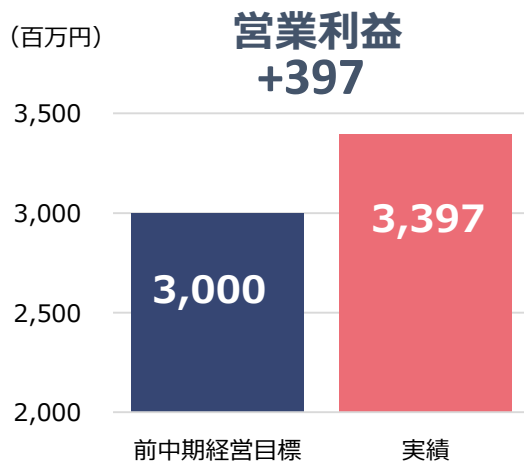
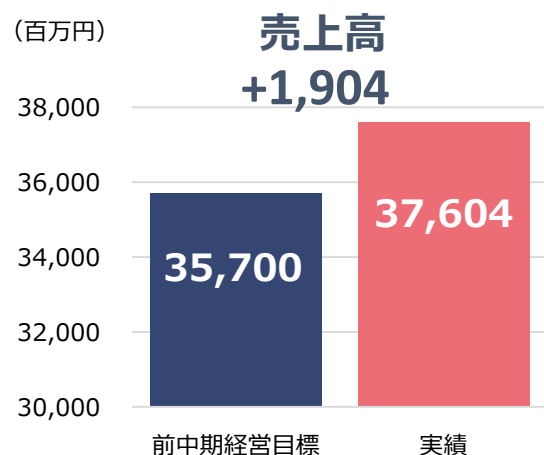
NEXT50

持続可能な経済成長と地域の安全・安心で豊かな暮らしの基盤の創造へ



前中期経営計画 最終年度(2022年9月期)の進捗について

主要項目(売上高、営業利益、社員数)全てにおいて前中期経営目標を達成



■売上高 目標値比 105%

- 基幹事業の堅調な受注を背景に、計画を約19億円上回った。

■営業利益 目標値比 113%

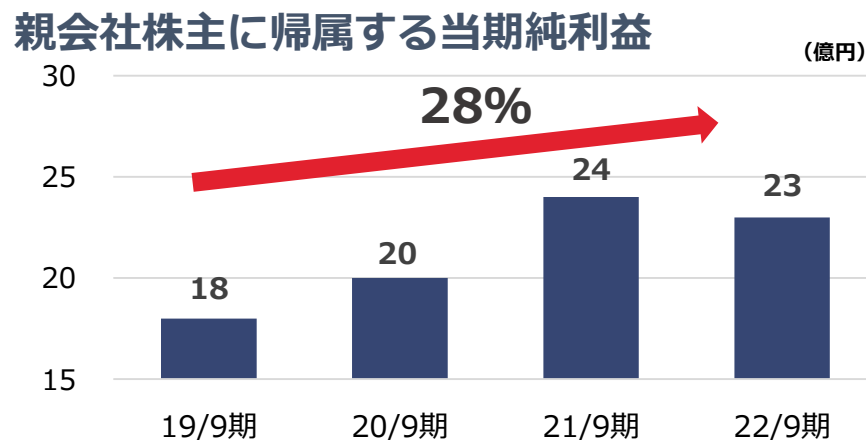
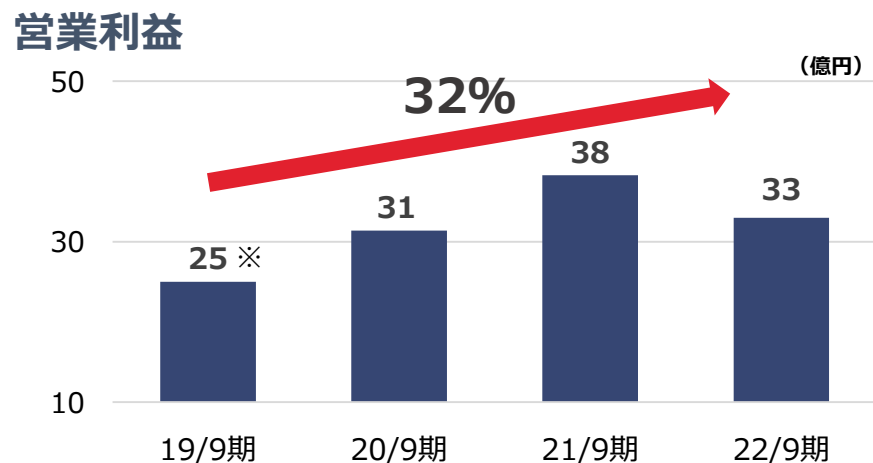
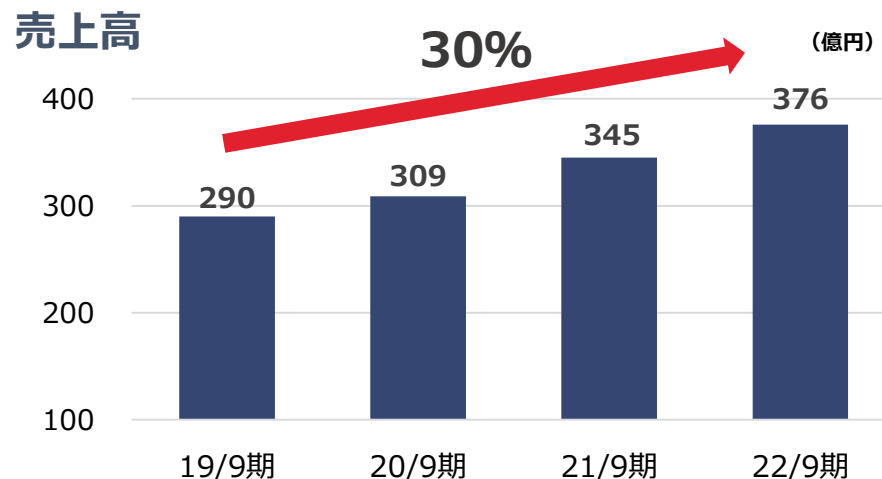
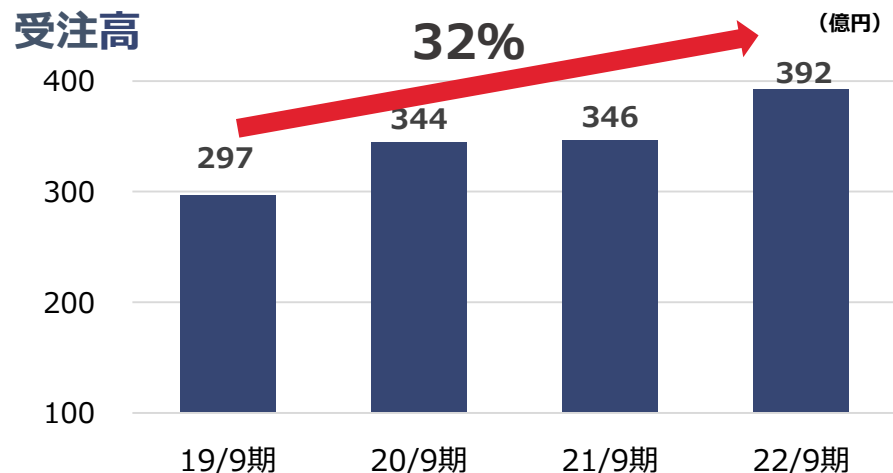
- 持株会社体制移行に伴う費用増加などがあったものの、売上高増および戦略的投資(技術者採用、研究開発、IT投資など)の次期へのずれ込みなどにより、計画を約4億円上回った。

■社員数 目標値比 101%

- ほぼ予定通りの増員の進捗となった。IT等による効率化により売上増加を図ることができたものの、さらなる技術者採用の推進が、長期経営計画実現にむけた重要な課題となる。

前中期経営計画の振り返り 連結業績推移 ～受注高・売上高・利益～

受注、売上高ともに、増加傾向を維持

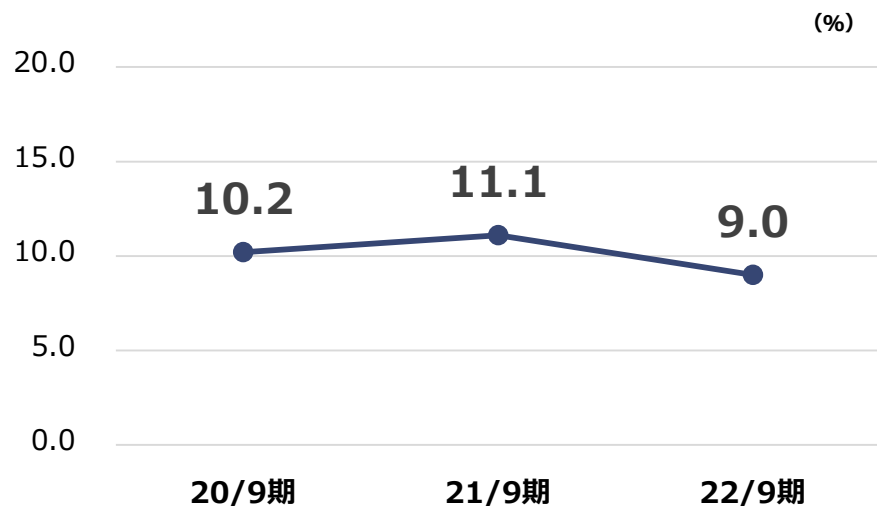


※保証金引き当て金4億円の影響を除く

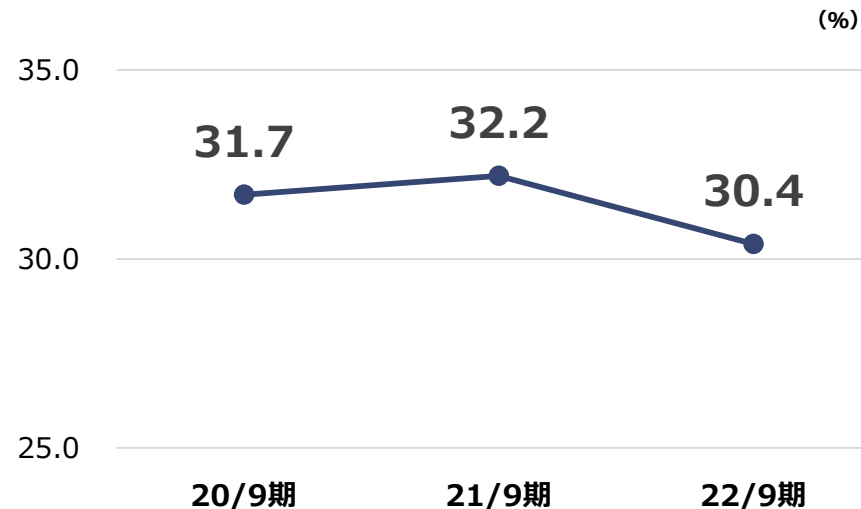
前中期経営計画の振り返り 連結業績推移 ～利益率～

売上増加を継続しつつも、営業利益率10%前後を堅持

営業利益率



粗利率

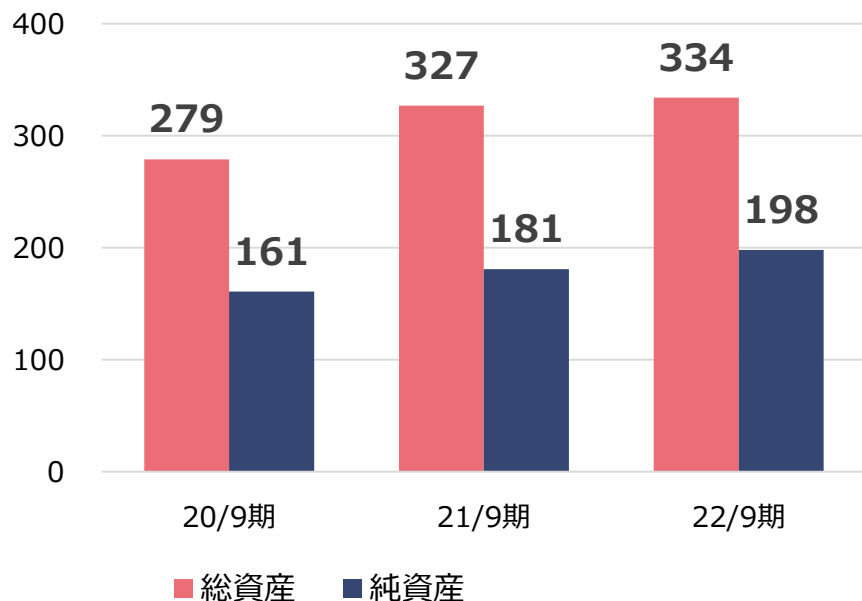


前中期経営計画の振り返り 連結財務状況推移 ～自己資本比率～

堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により、純資産、自己資本比率ともに増加

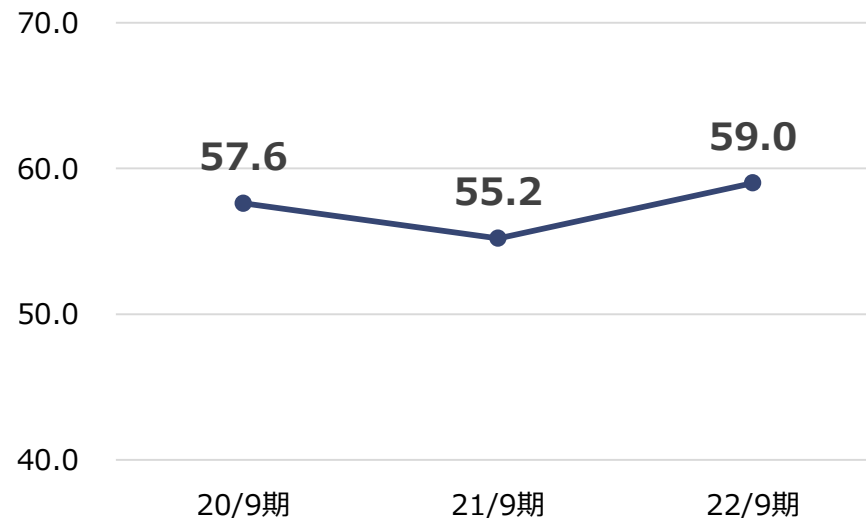
総資産・純資産

(億円)



自己資本比率

(%)








■ 総資産、純資産の増加について 利益剰余金の計上により、順調に増加

■ 自己資本比率について 総資産、純資産とともに増加

前中期経営計画の取組みの評価


事業軸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの取組みの評価

| 分野 | 施策 | 取組みの評価（成果と課題） |
|------|----------------------------|---|
| 事業軸Ⅰ | ① 基幹事業のさらなる強化と河川、防災分野の事業拡大 |  <ul style="list-style-type: none"> 公共事業予算が堅調に推移する中、営業利益率を維持しつつ増収を確保 積極的な技術者採用を進めたものの、慢性的な人員不足の解消には至らない状況 |
| | ② 国内未開拓エリア・顧客・業種における受注力強化 |  <ul style="list-style-type: none"> 自治体からの受注強化を実現 バスタ事業や港湾・河川事業等の新たな分野での売上も拡大 |
| 事業軸Ⅱ | ③ 環境事業の強化 |  <ul style="list-style-type: none"> 環境事業の顧客拡大では河川、農政、防衛などを含めた空白地帯の受注拡大により売上が増加 エコプロダクツ事業では木質バイオマスガス化発電所の運営・展開が拡大 |
| | ④ 再生可能エネルギー事業の基盤づくり |  <ul style="list-style-type: none"> 山梨県南部町でのバイオマス発電所の稼働開始 民間事業者からの洋上風力プロジェクトにおける洋上地質調査の事業が大きく拡大 |
| 事業軸Ⅲ | ⑤ 新たなまちづくり事業の基盤づくり |  <ul style="list-style-type: none"> スーパーシティオープンラボに加入。デジタル田園都市国家構想において、更別村の「北海道更別村SUPER VILLAGE構想」を推進 大分県別府市にグランピング施設を開設し、運営を開始 |

前中期経営計画の取組みの評価

事業軸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの取組みの評価

| 分野 | 施策 | 取組みの評価（成果と課題） |
|----------|----------------------------|--|
| 海外事業 | ⑥ 構造及び鉄道事業を中心とする主要事業の強化・育成 | △ <ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルスの感染拡大により現地社会活動が停滞、海外との渡航制限による影響を受け、プロジェクトの遅延、工期の延期、契約遅延等が発生。経済活動の再開とともに、受注・売上は回復基調 |
| | ⑦ 東南アジアにおける重点地域展開 | △ <ul style="list-style-type: none"> ■ シンガポール埋立工事案件の獲得等あったものの、新型コロナウイルスの感染拡大の影響大。経済活動の再開とともに、受注・売上は回復基調 |
| 横断的な取り組み | ① イノベーションとIT化への投資拡大 | ◎ <ul style="list-style-type: none"> ■ 「空飛ぶ車」プロジェクトへの足掛かりとして、エアモビリティ社への出資 ■ IT改革に向けエフェクトのグループ会社化 |
| | ② 働き方改革とダイバーシティのさらなる推進 | ○ <ul style="list-style-type: none"> ■ テレワークの推進やサテライトオフィスの導入 ■ 女性・外国籍者、障がい者、高齢者の雇用及び活躍促進 ■ 育児・介護休業の制度充実 |
| | ③ さらなる成長の基盤となる組織づくり | ○ <ul style="list-style-type: none"> ■ 持株会社化の実施 ■ 新規・中途採用の推進を行ったものの、慢性的な技術者人材不足の解消には至らず |

- 
- A stylized human figure logo composed of three overlapping, curved shapes. The leftmost shape is pink, the middle is light blue, and the rightmost is light green. Each shape has a small sphere of the same color positioned above it, suggesting a head. The figure is positioned in the background, behind the text.
1. ごあいさつ
 2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み
 3. 2022年9月期決算ハイライト
 4. 長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り
 5. **新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想**
 6. 2022年9月期下半期トピックス

「持続成長プラン2025」の位置づけ

「長期経営ビジョン 2030」へ向けたステップとなる第2フェーズ

計画期間 2023年9月期～2025年9月期

重要な社会環境の変化

- ・ 少子高齢化・地政学リスクの高まりにより、中長期的に公共事業の縮小の可能性
- ・ 新技術・新領域の進展により、デジタル化の進行と次世代の建設コンサルタント像へのシフトの必要性
- ・ 東証市場再編・情報開示の要請・ESG投資の高まりなど、サステナビリティ経営の重要性の拡大



「持続成長プラン2025」

第3・第4フェーズの確かな成長へ繋げるため、**事業領域の確立と拡大と人材戦略の推進**
当社グループへの企業の参加やグループ各社相互の連携・補完により、**グループ力の強化の推進**

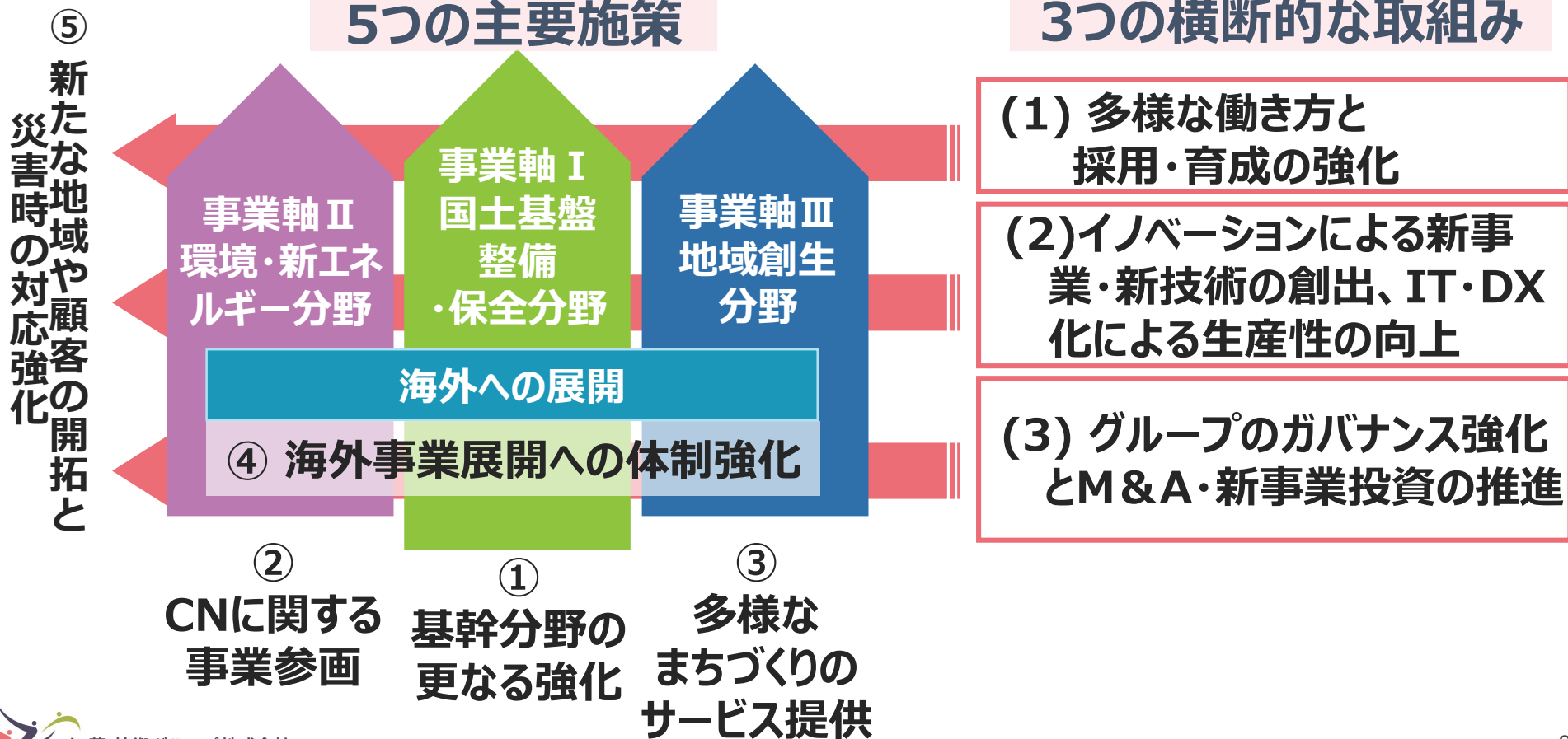
「持続成長プラン2025」の基本方針と主要施策

計画期間 2023年9月期～2025年9月期

基本方針

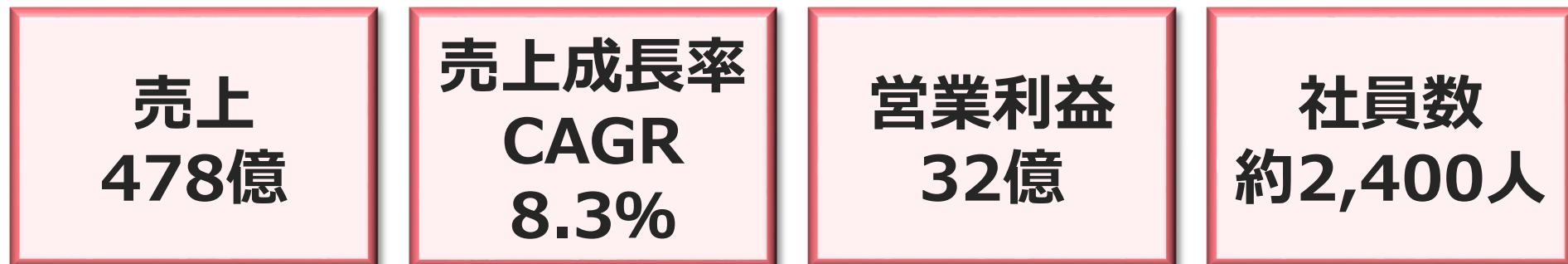
国土基盤整備・保全分野のさらなる強化と環境・新エネルギー分野及び地域創生分野の新たな事業分野としての確立。事業を支える多様な人材が働きがいを持てる環境づくりを推進。

5つの主要施策

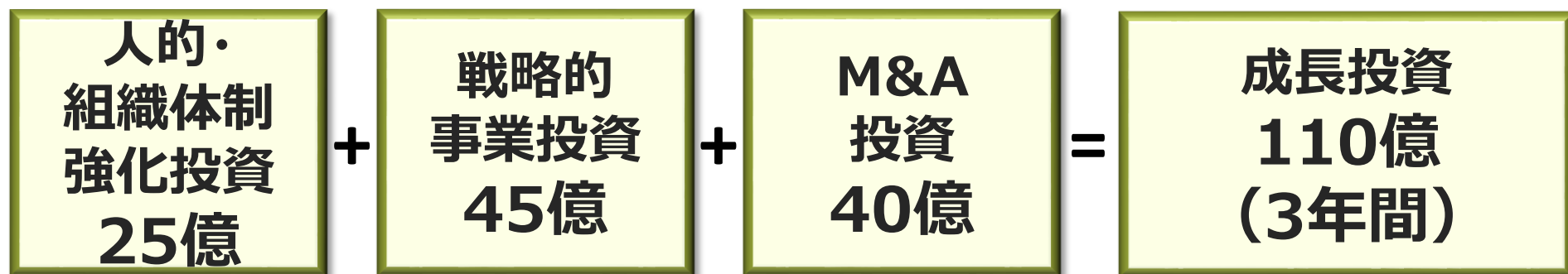


「持続成長プラン2025」の経営指標と成長投資

経営指標（2025年の目標値）

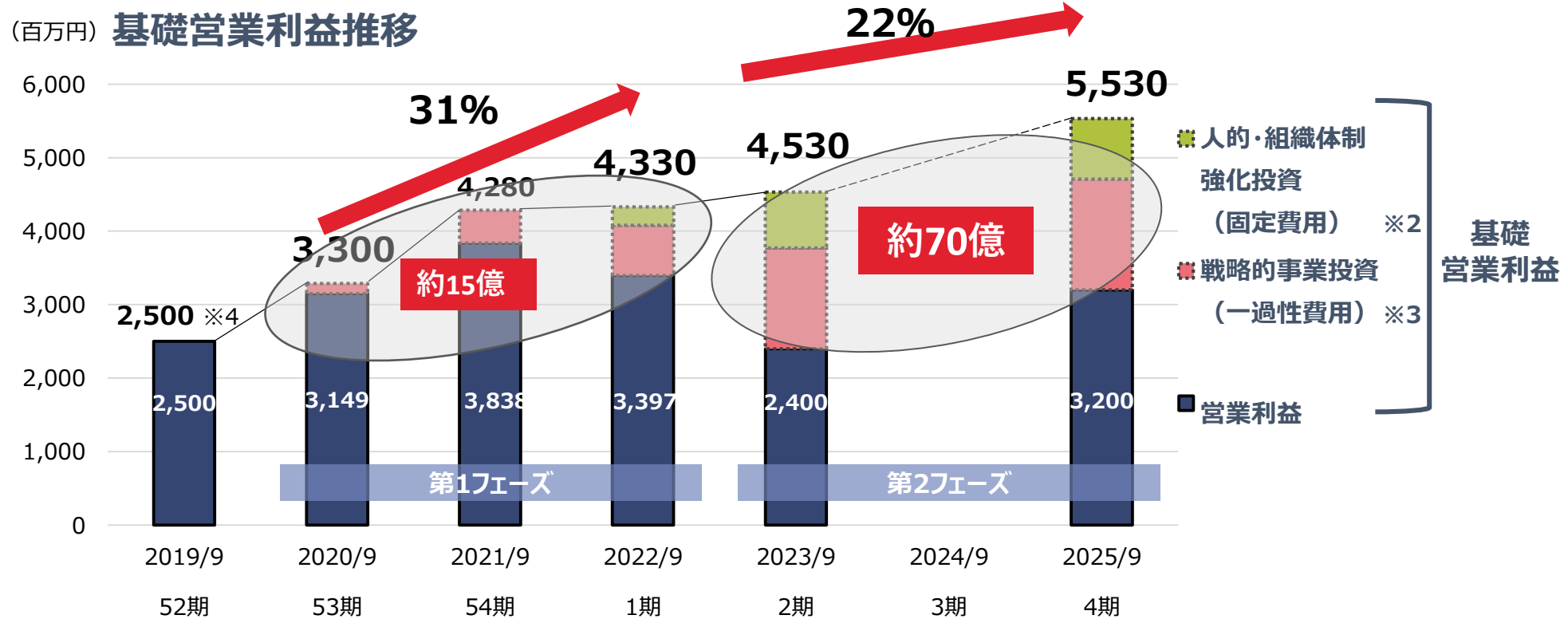


成長投資（2025年までの投資額）



「持続成長プラン2025」の経営指標と成長投資

長期ビジョン2030の実現に向けて、先行投資を約5倍へ！



- 長期経営ビジョン2030第1フェーズは、3ヶ年における売上高成長率CAGRが+9%、基礎営業利益ベースにおいても順調に増加
- 第2フェーズにおいては、基礎営業利益ベースでは増益基調を継続するものの、将来のさらなる事業拡大に向けた体制強化投資、戦略的事業投資の推進により、営業利益は一時的に減益となる

※1 2021年9月期以前の実績は、株式会社長大として公表した数値

※2 体制強化投資：持株会社体制強化、給与賃上げ、グループ全体のITインフラ強化等

※3 戦略的事業投資：研究開発費を含めた新事業投資等

※4 保証金引き当て金4億円の影響を除く

人・夢・技術グループ°2023年9月期 連結業績予想

2023年9月期は、対前年比で増収減益の見込み

(百万円)

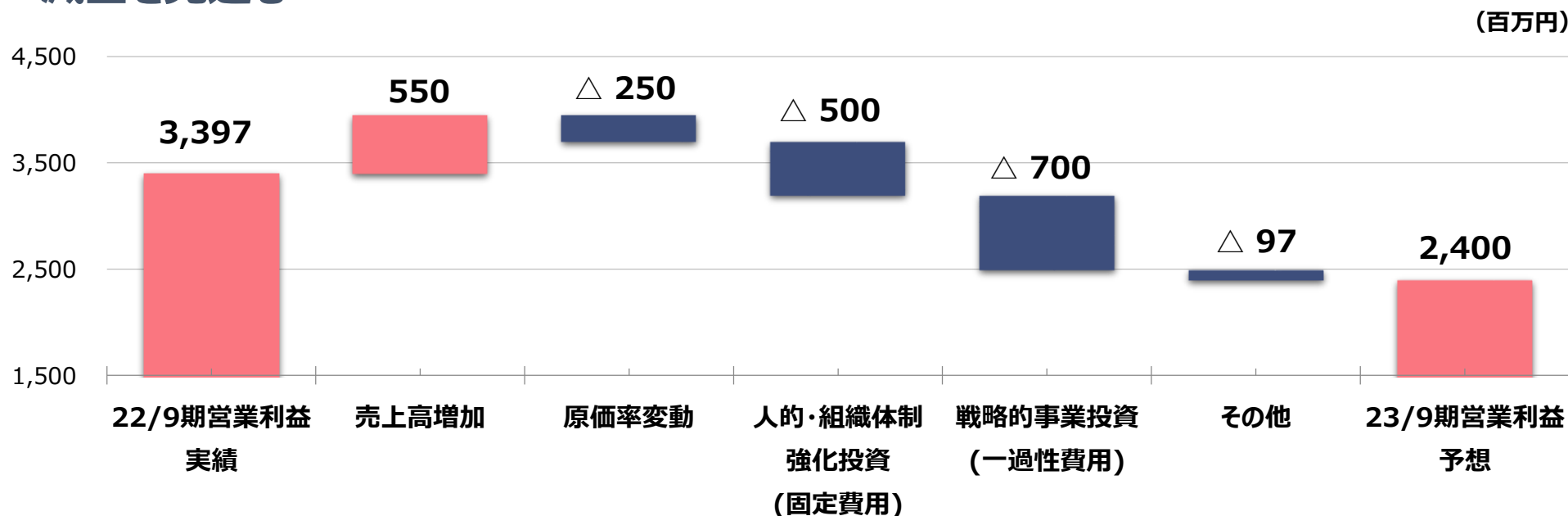
| | 2022年9月期 通期実績 | 2023年9月期 通期予想 | 実績比 増減 |
|---------------------|------------------|------------------|-----------|
| 受注高 | 39,265 | 42,000 | 2,734 |
| 売上高 | 37,604 | 41,500 | 3,895 |
| 営業利益 | 3,397 | 2,400 | △997 |
| 経常利益 | 3,891 | 2,450 | △1,441 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 2,333 | 1,200 | △1,133 |

■売上高、営業利益について


- **売上高**については、引き続き堅調な基幹事業の受注を背景に増収の見込
- **営業利益**については、引き続き成長の基盤となる組織体制の強化に重点を置き、技術者の増員、IT技術の活用による業務効率化、給与水準の引き上げの実施、また、新事業領域拡大に向けての研究開発の推進などによる先行投資の実施により、減益の見込

営業利益増減要因の分析

好調な基幹事業の受注が牽引し売上高増を見込む一方、一過性の費用増により減益を見込む



- **国内事業**は、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が実施される中、引き続きインフラ設備の大規模更新や老朽化対策、防災システムの構築案件、緊急防災点検分野等での受注拡大を図る。環境・再生可能エネルギー事業、新しいまちづくり事業についても、事業ノウハウの蓄積を図る一方で、関与案件の拡大を図る
- **海外事業**は、経済活動の正常化が進むことによる緩和等を踏まえ、受注の拡大を推進する
- **グループ全体**では、ITインフラ整備を推進し業務の効率化を図る一方、それに伴うイノベーションやIT化推進のための費用、将来の成長を支える人材の確保のための費用、「成長と分配」という政府の要請による給与水準の引き上げ、新事業領域拡大に向けた研究開発投資などの一過性の費用の発生を見込む

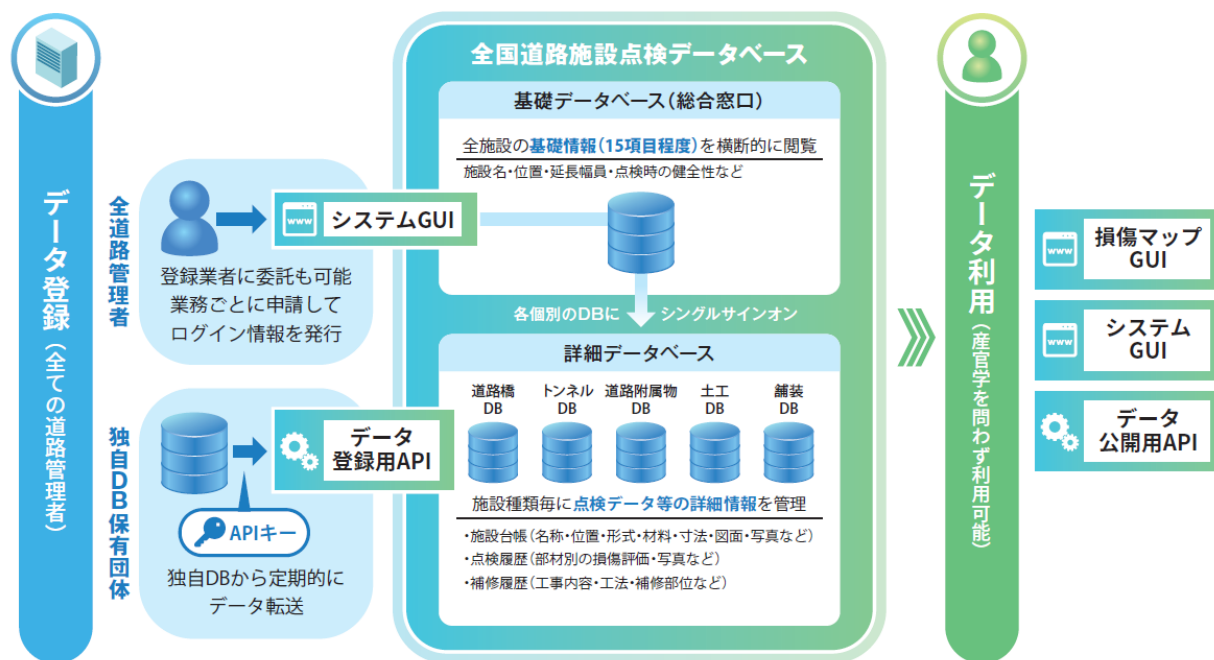
- 
1. ごあいさつ
2. 人・夢・技術グループの新しい取り組み
3. 2022年9月期決算ハイライト
4. 長期経営ビジョン2030・
前中期経営計画「持続成長プラン2019」の振り返り
5. 新中期経営計画「持続成長プラン2025」・
2023年9月期連結業績予想
- 6. 2022年9月期下半期トピックス**

2022年9月期下半期 トピックス一覧

| | テーマ | トピックス |
|----------|--------------|--|
| 事業軸Ⅰ | 基幹事業の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> 道路施設情報のオープンデータ化によって建設DXを推進 [長大] 和光市の自動運転サービスに関する各種業務を実施 [長大] 総合力を活かして防衛省関連業務を拡大展開 [長大] 中部国際空港事業で長年の実績を活かし、空港島拡張に伴う海上調査を担当 [基礎地盤C] |
| | 災害復旧、防災・減災対策 | <ul style="list-style-type: none"> 福島県復興祈念公園でBIM/CIMを使いトレイルを設計 [長大] 地震による地すべり災害の復旧支援 [基礎地盤コンサルタンツ] |
| | IT化・DXの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 東京都の液状化予測図の改訂をITで支援 [基礎地盤コンサルタンツ] 3Dレーザースキャナー測量で現場の安全性向上へ [長大テック] 「自律巡回型農園監視システム」を研究開発 [エフェクト] |
| 事業軸Ⅱ | 環境・新エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> 西表島の新庁舎建設で新庁舎の設計、環境調査を実施 [長大] 地方自治体の再生可能エネルギー導入計画策定を支援 [長大・基礎地盤コンサルタンツ] 事業を通じて里山を守り、防災・減災を推進 [基礎地盤コンサルタンツ] 葛西海浜公園の干潟の利活用計画策定を支援 [基礎地盤コンサルタンツ] |
| 事業軸Ⅲ | まちづくり・地域創生 | <ul style="list-style-type: none"> バイオ炭の農地施用がJ-クレジットに認証 [長大] 新潟駅の万代広場整備事業で景観をトータルマネジメント [長大] ふくおか灯のパートナー事業 [長大テック] 浜松の自動運転の実証実験で予約システムを提供 [順風路] |
| 海外連携展開領域 | | <ul style="list-style-type: none"> マダガスカルで道路・橋梁維持管理の技術移転プロジェクト始動 [長大] |

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

道路施設情報のオープンデータ化によって建設DXを推進 [長大]



- 国土交通省は道路施設の点検データを一元管理する『全国道路施設点検データベース』の整備を進めており、長大は同データベースの基本構想の検討段階から、計画・開発・運営に関する支援を行う
- これにより民間企業等による技術開発の推進や維持管理の効率化を図ることが期待され、国土交通省の進める道路システムのDX化に貢献

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

和光市の自動運転サービスに関する各種業務を実施 [長大]



自動運転専用レーン整備イメージ

- 埼玉県和光市では、高齢化社会に備えて、バスを使った自動運転による公共サービスに導入に取り組む
- 長大は、自動運転サービス全体の計画立案や効果検証、協議会運営補助、自動運転専用レーン整備のための道路設計等、幅広い支援を実施

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

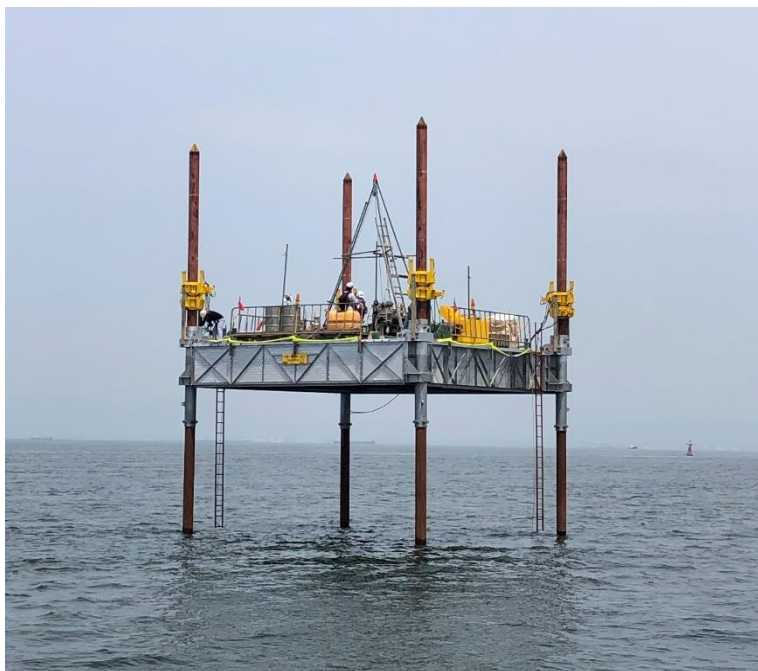
総合力を活かして防衛省関連業務を拡大展開 [長大]



- 長大では5年前より防衛省関連業務に参入、ゼロからスタートした防衛業務だが、総合コンサルタントの強みを活かし、現在では全国の防衛局から期待を寄せられる
- 沖縄県のインターチェンジの建設では、不慣れな米軍の技術基準など顧客の多様なニーズに、道路・橋梁・交通の各分野の技術者の総合力で課題を解決
- 今後はPFI手法を用いた新たな形の自衛隊宿舎建設事業の展開も目指す

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

中部国際空港(セントレア)事業で長年の実績を活かす [基礎地盤コンサルタンツ]



- 基礎地盤コンサルタンツでは、2005年に開港した中部国際空港(セントレア)の造成事業に事前調査段階から参画し、土砂採取場の調査、地盤改良、施工管理に携わる
- 2021年からは、空港島の拡張とともに名古屋港から発生する浚渫土砂の処分を目的とした埋め立て事業が開始し、これまでの実績が評価され海上調査3件を一手に担当する

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

福島県復興祈念公園でBIM/CIMを使いトレイルを設計 [長大]



- 東日本大震災で犠牲になった方々の追悼と鎮魂の場として、福島県復興祈念公園が建設予定
- 隣接する東日本大震災・原子力災害伝承館と一体となって伝承施設とするためにも、施設間を連結する動線(トレイル)が計画
- 長大はBIM/CIM*を活用し、トレイルの景観導入、構造設計を行い、地域の復興に尽力

*BIM/CIM:計画・調査・設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工・維持管理においても3次元モデルを活用することで、建設生産システム全体の効率化・高度化を図る手法。

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

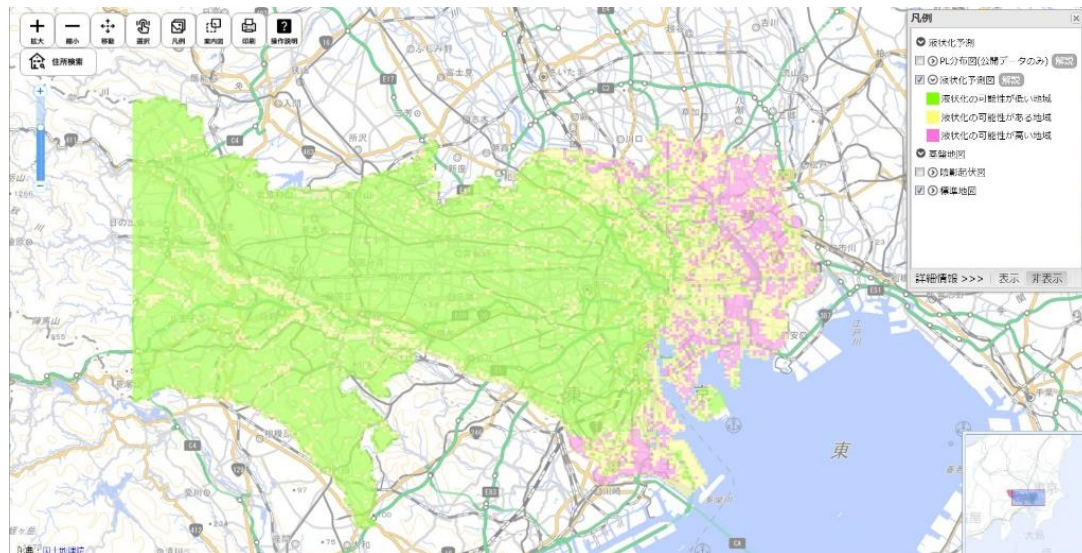
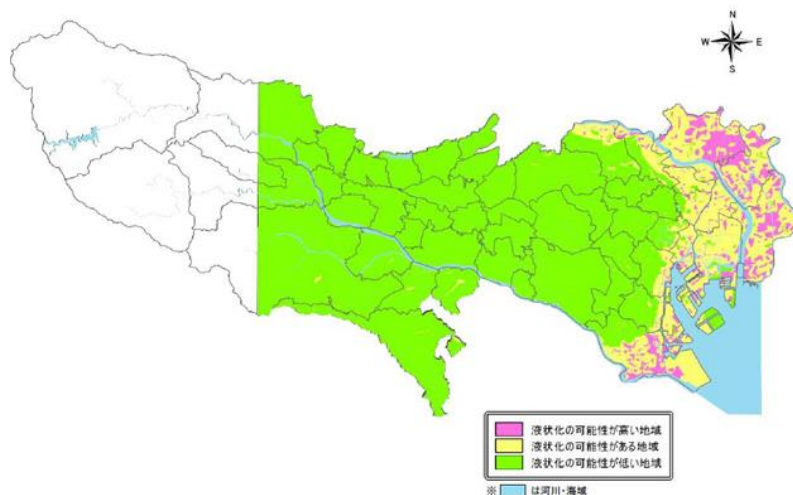
地震による地すべり災害の復旧支援 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 2021年5月、岩手県西和賀町の国道107号で、地震による大規模な地すべり災害が発生
- 基礎地盤コンサルタンツでは、被災直後から復旧方針の検討・調査、24時間体制の動態観測、応急対策の設計を行い復旧事業を継続して支援
- 現在では仮復旧に向けたモニタリングを継続しつつ、二次災害等の危機管理に取り組む

[事業軸 I] IT化の推進

東京都の液状化予測図の改訂をITで支援 [基礎地盤コンサルタンツ]

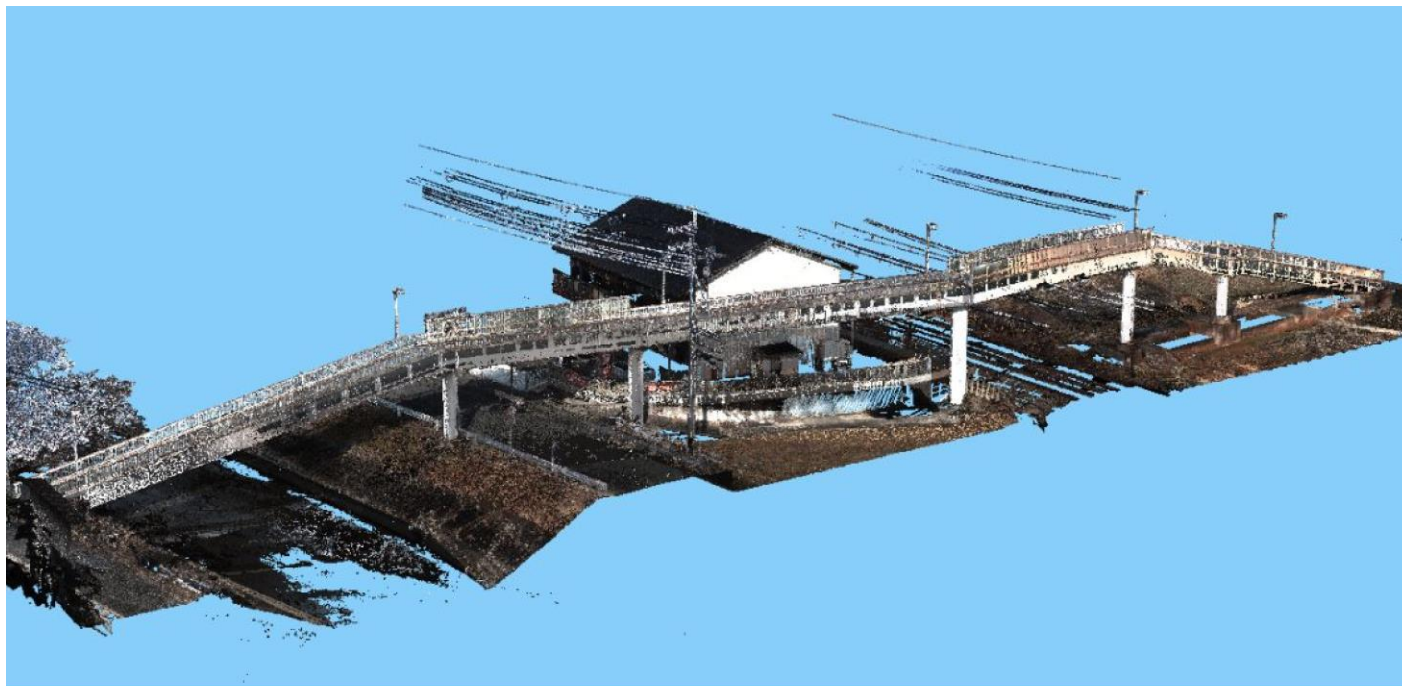


左：平成24年度改訂版，右：令和3年度改訂版（いずれも東京都ホームページ）

- 東京都は2022年3月、東京都の液状化予測図(令和3年度改訂版)を公開、ボーリングデータの蓄積により、10年前の予測図よりさらに精密な液状化予測図となる
- 基礎地盤コンサルタンツでは改訂にあたり、最新の知見を踏まえた液状化判定方法の見直しや、今後のボーリングデータの追加を考慮し、データの抽出・液状化判定・判定図出力を自動化するなどITによる省力化を行う

[事業軸 I] IT化の推進

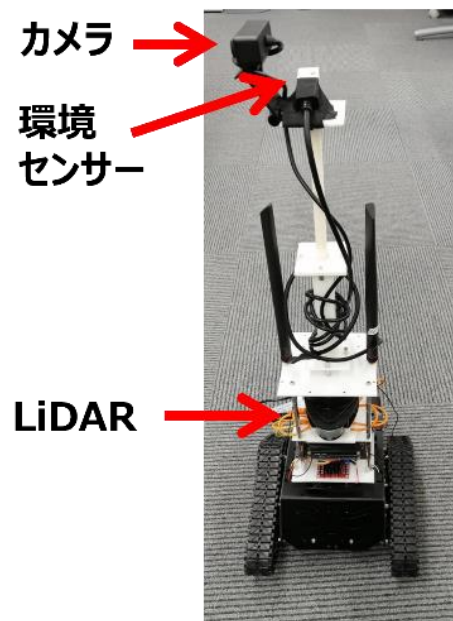
3Dレーザースキャナー測量で現場の安全性向上へ [長大テック]



- 長大テックは、現場作業の安全性向上のため、高い測量制度を持つ「3Dレーザースキャナー測量」で取得した点群データの活用を進める
- 対象物に直接触れずに計測できるため、人の立ち入りが困難な危険箇所も計測可能であり、安全対策費等のコスト削減が期待できる
- 今後は、点群データの処理技術を向上させ、災害現場の土砂崩れ箇所や高架橋などでの測量に活用する

[事業軸 I] IT化の推進

「自律巡回型農園監視システム」を研究開発 [エフェクト]



- ITによる自動化・効率化で生産性を上げる「スマート農業」の実用化が進む中、エフェクトでは大掛かりな仕組みを必要とせず、安価で気軽に導入できる農業支援を目指す
- これまで、ドローンを活用したイチゴの収穫支援システムの実証実験を行ってきたが、新たにクローラーを用いた検証を実施、実際にイチゴ農園での走行テストや画像取得の検証を行い、早期実用化を目指す

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

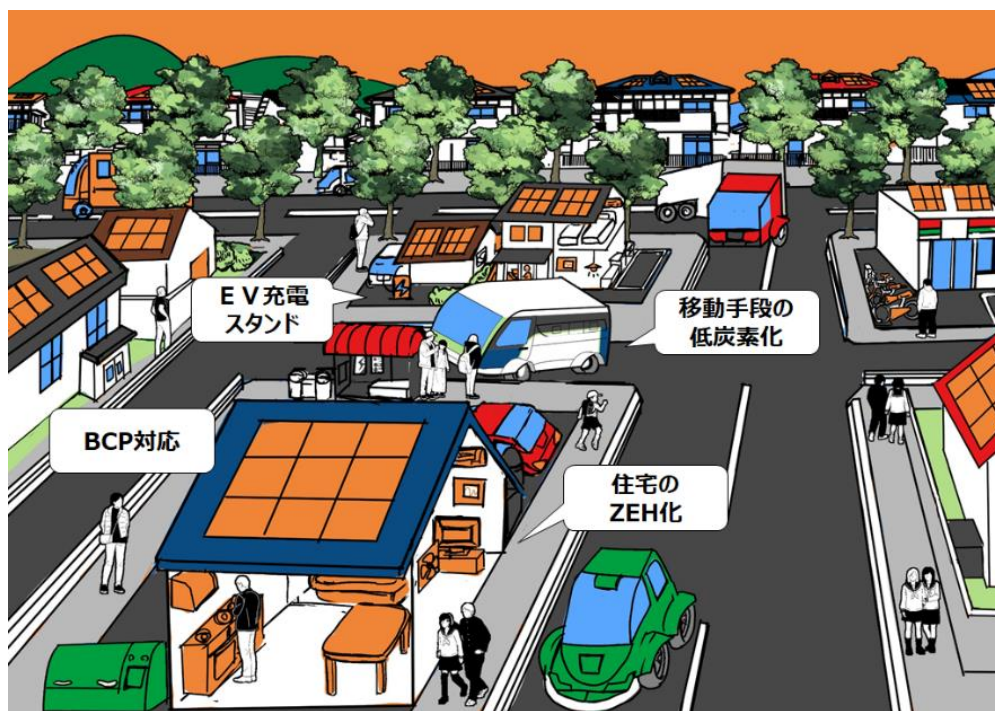
西表島の新庁舎建設で新庁舎の設計、環境調査を実施 [長大]



- 沖縄県竹富町では、石垣市から町内への庁舎移転計画があり、長大は新庁舎の基本設計、導入計画の立案、環境調査を行う
- 建設予定地が自然公園法に規定される西表石垣国立公園であり、西表島は国内初の「星空保護区」として国際ダークスカイ協会にも認定されているため、動植物調査に加え、光害への配慮も行う

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

地方自治体の再生可能エネルギー導入計画策定を支援 [長大・基礎地盤コンサルタンツ]



- 長大や基礎地盤コンサルタンツでは、2050年カーボンニュートラルの実現に向け地方自治体が進める再生可能エネルギー導入計画策定を支援
- バイオマス発電事業や地熱発電事業、洋上風力発電事業といった再生可能エネルギー事業の経験や実績を活かし、地域のポテンシャルを活かす再生可能エネルギーの導入に向け、質の高いコンサルティングを提供

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

事業を通じて里山を守り、防災・減災を推進 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 多様な動植物の宝庫である日本各地の里山は現在、資源価値が薄れ、災害の危険性も高まる
- 基礎地盤コンサルタンツでは、兵庫県が実施している「里山防災林整備事業」を通じて、森林の山地災害防止機能を高めるための整備方針の策定や住民参画型の防災・減災活動を支援、「Eco-DRR (生態系を活用した防災・減災)」を推進

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

葛西海浜公園の干潟の利活用計画策定を支援 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 東京都の葛西海浜公園には、スズガモ等の水鳥が越冬する自然が再生された人工干潟があり、ラムサール条約湿地にも登録
- 基礎地盤コンサルタンツでは、園内の鳥類・魚類・底生動物の調査を実施し、自然環境のポテンシャルも整理して干潟の利活用計画策定を支援

バイオ炭の農地施用がJ-クレジットに認証 [長大]



左：バイオ炭 右：施用後の農園

- 長大子会社の南部町バイオマスエナジーは、同社が運営するバイオマス発電所から排出されるバイオ炭を土壤改良剤として近隣農地へ施用
- その結果、この方法論では国内初となるJ-クレジット認証を受ける
- 今後もバイオマス発電とバイオ炭CCS*で脱炭素社会に貢献していく

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

新潟駅の万代広場整備事業で景観をトータルマネジメント [長大]



- 長大は、新潟駅の万代広場整備事業において、駅舎と広場を接続するペDESTリアンデッキの設計業務を実施、万代広場のコンセプト「川・潟・水面」に合わせて景観をトータルマネジメント
- 構造事業部と建築設計部が協働し、BIMを利用したデッキ形状や昇降施設設置の検討・協議を行い、利用しやすい動線と景観向上を実現し、電球色のLED照明による人々を自然に導く光の演出を提案

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

ふくおか灯のパートナー事業 [長大テック]



- 長大テックでは、福岡市と「ふくおか灯のパートナー事業」の協定を締結、パートナー企業は対象の道路照明灯の維持管理を担当
- 照明の「不点灯」や支柱部分の「破損」など、維持管理上の障害を発見した際や、地域住民等から連絡を受けた際に、福岡市へ報告、維持管理を積極的にサポートすることで社会貢献、道路の安全向上に寄与

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

浜松の自動運転の実証実験で予約システムを提供 [順風路]



- 順風路は、浜松市と自動車、鉄道、IT関連企業等が共同で取り組む『浜松自動運転やらまいかプロジェクト』に参加、乗合いオンデマンド交通システム「コンビニクル」を提供する
- IT企業が提供する自動運転車両運行プラットフォームと連携させることで、予約者がスマートフォンをもって車両に近づくとドアが自動で開き、乗車後にシートベルトを着用するとドアは自動で閉まる仕組みを実現

[海外連携展開領域] 基幹事業の拡大

マダガスカルで道路・橋梁維持管理の技術移転プロジェクト始動 [長大]



- マダガスカルでは現在、インフラの維持管理が適切に行われず、道路・橋梁の健全度が悪化
- 長大では現地の関係省庁や団体の職員に対し、道路及び橋梁の維持管理に関するマネジメント等能力の技術移転を開始
- 道路が健全な状態に維持管理されることで、物流の円滑化や二酸化酸素の排出抑制に寄与することを期待

ディスクレームー

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください
- 本資料の著作権は当社が保有しており、無断転載は禁止いたします

お問い合わせ先： 人・夢・技術グループ株式会社 経営戦略センター 経営企画部

電話：03-3639-3317 FAX：03-6634-6430

Mail：ir@pdt-g.co.jp



**2022年9月期 決算説明会
ご清聴どうもありがとうございました。**